



気持ちを伝える／くみ取る学び： 即興演劇の手法を活用した授業構想

—「アート・コミュニケーションの理論と方法」を事例として—

1 はじめに

高等教育において「能動的な学びの場」として、アクティブ・ラーニングの活用が推奨されているが、特に教員養成課程においては「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（案）」（文部科学省 2016）¹⁾にあ

るように、子供たちの資質や能力の確実な育成に向けて、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れたカリキュラムが求められている。アクティブ・ラーニングの視点として「主体的な学習」「対話的な学習」「深い学び」の3つが挙げられている。これは、主体的に学びを振り返って次につなげることや、協働の学びから対話を重ね多様な表現に気付き思考を広げること、学んだ知識や考え方を活用して問題解決などに向けて探求すること

である。

本学児童教育学科の学生は、大半が小学校教員を志望しており、学科の専門科目は、教員養成の内容が主となっている。そのような中で、新しい学習指導要領の実施を踏まえ、主体的な学びを創造する指導力のある教員を養成することは、教員養成課程の大きな役割と使命である。

本学児童教育学科の学生は、大半が小学校教員を志望しており、学科の専門科目は、教員養成の内容が主となっている。そのような中で、新しい学習指導要領の実施を踏まえ、主体的な学びを創造する指導力のある教員を養成することは、教員養成課程の大きな役割と使命である。

筆者が担当する1年次配当の必修科目「アート・コミュニケーションの理論と方法」の授業は、非言語を含めたコミュニケーション能力の育成を目的としており、全15回の授業の中で、即興演劇の手法を取り入れた様々なアクティビティを行うアクティブ・ラーニング型の授業である。大学1年次の春学期実施ということもあり、仲間作りというねらいも含んでいるが、学生には、自己の思いを相手に伝えるとともに相手の気持ちをくみ取ることの大切さを、毎時間の協働の活動や振り返りから学んでいく。学生は、活動を通して互いの多様な考えや個性に気づき、期末の発表会に向けて、ときには意見の衝突をしながらも、話し合い、チームとしての団結力を高めていく。他者との関わりの中で感じ方や考え方、表現方法などの違いを認めながら模索し、合意形成を図りチームの表現を作り上げていく。

毎回の授業では、小グループに分かれて、台本のない即興のアクティビティに取り組む。学生は、授業後に振り返りカードの記入をし、その日の授業の中で感じたこと、気付いたことなどについて、よいことも悪いことも含め自由に書く。授業者として授業をデザインする中で見えてくる学生の様子と、毎回の学生の振り返りなどから、学生たちが戸惑い、悩みながらも、他者との関わりを通して、次第に自分の殻を打ち破っていく様子が見えてきた。そこには、学生にとって自覚の伴った成長があった。学生たちの能動的な学びを視点にして、授業での場の設定とそれに伴う学生の様子などを報告する。

2 教員養成課程における演劇的手法の活用とコミュニケーション能力の育成

教員養成における演劇的手法の実践は、北海道教育大学『教師になる劇場』（2014）⁽²⁾などにおいても、その効果とともに報告されている。

さらには、コミュニケーション能力の育成にあたり、諸外国では教育の中に、ドラマ教育や即興演劇教育が多く取り上げられている。例えば、ドラマ教育とリテラシー教育の実践者でもあり研究者でもある、トロント大学のデイヴィッド・ブース（David Booth 2006）⁽³⁾などは、多くの実践とその効果を紹介している。

3 実践事例

3-1 授業概要

本科目の平成28年度の履修者は1年67名、他学年1名、留学生1名の計69名であった。69名を2クラスに分け、1コマ35人で実施した。全15回に加え、3回分の課外授業も含まれるが、授業の大まかな内容は次の通りである（表1）。

表1 授業内容

回	テーマ	授業内容
1	自己と他者を意識する	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介（呼ばれたいワークネームを決める） ・グループ分け（ランダムに7・8人グループ） ・ウォーミングアップ ・Yes,Let's ・Yes,and ・One Word ・振り返り

回	テーマ	授業内容
2	他者のアイデアと自分のアイデアをつなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・グループ分け（ランダムに7・8人グループ） ・リズム連想 ・One voice ・クラス内発表会：One word組とOne voice組に分かれて二人劇 ・振り返り
3	チームでイメージを共有し、イメージを広げる	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・グループ分け（ランダムに6・7人グループ） ・ウォーミングアップ ・ミラー・スローモーション ・写真館 ・Extend ・サンキューゲーム ・クラス内発表会：サンキューゲーム ・振り返り
4	他者に伝えるための客観性	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・グループ分け（ランダムに6・7人グループ） ・ウォーミングアップ ・プレゼント・ゲーム ・テレビショッピング風Yes,and ・フリーズタッグ ・クラス内発表会：フリーズタッグ
5	キャラクターをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・グループ分け（ランダムに6・7人グループ） ・ウォーミングアップ ・ワンワード・架空の人物紹介 ・インタビューとエキスパート ・ワンワードストーリー ・何やっているのゲーム ・クラス内発表会：何やっているのゲーム
6	言葉の表現、動きの表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・グループ分け（ランダムに6・7人グループ） ・ウォーミングアップ ・インタビューとエキスパート ・職業当てマイム ・スローモーション実況中継 ・クラス内発表会：スローモーション実況中継

回	テーマ	授業内容
7	イメージすることの瞬発力を鍛える	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・グループ分け（ランダムに6・7人グループ） ・ウォーミングアップ ・名作一分間 ・10秒シーン ・ジブリッシュ ・シェアードストーリー ・ジブリッシュシーン
8	感情表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・グループ分け（ランダムに4・5人グループ） ・ウォーミングアップ ・フリーズタッグ ・スタンディング・ウェーブ ・ジブリッシュマイム ・あなた誰？ ・クラス内発表会：あなた誰 ・振り返り
9	物語の世界観を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・グループ分け（ランダムに4・5人グループ） ・ウォーミングアップ ・架空のタイトル・目的の分かる最初の一行・最後の一行 ・バベット ・スペースジャンプ ・クラス内発表会：スペースジャンプ ・振り返り
特別回	※学年合同番外編	<p>アート・コミュニケーションを振り返る</p> <p>①プラスの感情を味わうときはどんな時？</p> <p>②マイナスの感情を味わうときはどんな時？</p> <p>③マイナスの感情が芽生えたら、どう対処できるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスをミックスした11チームで6・7人グループ
10	発表会に向けてチームのつながりをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・チームのつながり強化ワーク ・チームの強み、課題について ・チーム名について
11	最終プロジェクトの立案と検討①	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ協議 ・振り返り

回	テーマ	授業内容
12	最終プロジェクトの立案と検討②	・グループ協議 ・振り返り
13	リハーサル	・リハーサル ・各チームの入場確認、第一ラウンド、仮採点 ・振り返り
14	発表と相互評価① 予選会—クラス発表会—	・観客へ採点基準の説明 ・前半戦（4チーム）の入場パフォーマンス ・第1ラウンド ・第2ラウンド ・後半戦（3チーム）の入場パフォーマンス ・第1ラウンド ・第2ラウンド ・予選前半・後半トータル上位3チーム発表 ・振り返り
特別回	特別リハーサル（2コマ） 決勝進出6チーム研心館にて	1 コマ目 ・全体パフォーマンス練習 2 コマ目 ・リハーサル
15	発表と相互評価② 決勝戦—合同発表会—	・オープニング動画 ・合同パフォーマンス ・各チーム入場パフォーマンス ・観客へ採点基準の説明 ・第1ラウンド ・第2ラウンド ・結果発表 ・振り返り

3-2 90分間の活動内容と場の設定

本授業では、学生が主体的に活動できるように、様々な場の設定を行い進める。第4回目の授業を例にとり、90分間の活動内容と場の設定を紹介する（表2）。

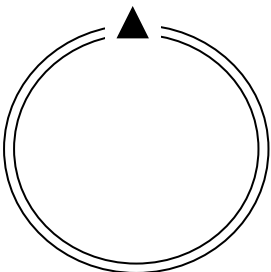
これまでの1～3回目の授業の中で、学生は他者に自分の思いを伝えるアクティビティに取り組んできた。授業が進むにつれ、学生の振り返りカードの中には「自分の思いが相手に伝わらない」「相手が何を伝えたいのか

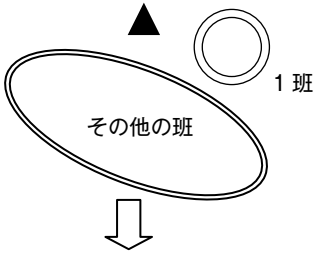
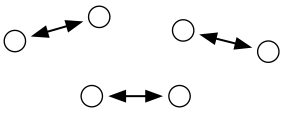
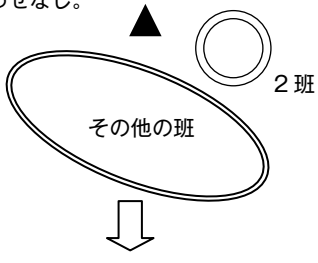
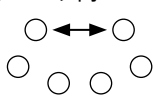
分からない」ことに関する記述が多くなっていく。そこで第4回目は、客観性ももちながら自分の思いを表現することをテーマとしている。

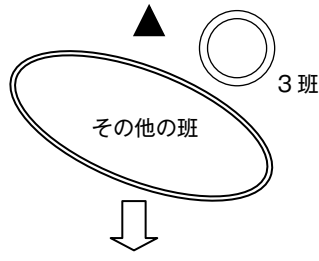
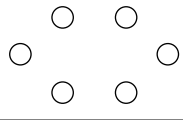
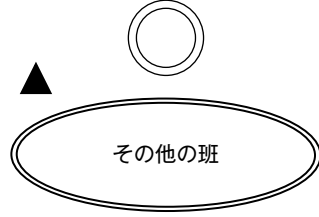
表2のStep0では、ストレッチから始めるため、教室内の机といすを皆で廊下に出すところから始まる。広くなった教室で、皆で大きな輪を作り、互いの表情を見合いながら、身体をほぐしていく。最初は緊張と不安で、表情も強張っている学生たちではあるが、ストレッチをすることで、身体と心がほぐれ、発声の準備にもなる。

Step1では、大きな輪の状態ランダムに先頭を決め、そこから1～6の番号を割り振り、6つのグループ編成を行った。授業の内容によって、このグループ数は増減

表2 90分間の活動内容と場の設定

活動内容	場の設定
	▲ 教員 ○ グループ ○ 学生
Step0 9：00～ (10分)	教室の机といすは片付ける。履修者全員で大きな輪になり、ストレッチをする。
・振り返りカードを受け取る ・ストレッチをする	
Step1 9：10～ (10分)	小グループごとに輪になり、ウォーミングアップと前回の復習をする。
・小グループ（ランダムに6、7人グループ）になる ・ウォーミングアップをする ・前回の復習をする	<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">板書</div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">▲</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">○ 3班</div> <div style="text-align: center;">○ 2班</div> <div style="text-align: center;">○ 1班</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">○ 6班</div> <div style="text-align: center;">○ 5班</div> <div style="text-align: center;">○ 4班</div> </div> </div>

活動内容	場の設定 ▲ 教員 ○ グループ ○ 学生
<p>Step2 9:20～ (10分)</p> <p>・本日のアクティビティ①の内容を確認する</p>	<p>指名された班（ランダムに指名）は、教員の指示に従い、本日のアクティビティ①「プレゼント・ゲーム」の模範演技（ルール・注意点の説明）を即興で行う。事前打ち合わせなし。</p>  <p>説明後、小グループ内でペアをつくり、アクティビティを体験する。</p> <p><小グループ内></p>  <p>体験後、ペアで感想を聞き合う。</p>
<p>・小グループ内でペアをつくり、体験する</p> <p>・ペアで振り返りをする</p>	
<p>Step3 9:30～ (10分)</p> <p>・本日のアクティビティ②の内容を確認する</p>	<p>指名された班（ランダムに指名）は、教員の指示に従い、本日のアクティビティ②「テレビショッピング風 Yes,and」の模範演技（ルール・注意点の説明）を即興で行う。事前打ち合わせなし。</p>  <p>説明後、小グループ内で新たなペアをつくり、順番にアクティビティを行う。小グループ内で、互いに見合う。</p> <p><小グループ内></p>  <p>見て感じたことなど、感想を言う。</p>
<p>・小グループ内でペアごとに体験する</p> <p>・小グループ内で振り返り</p>	

活動内容	場の設定 ▲ 教員 ○ グループ ○ 学生
<p>Step4 9:40～ (10分)</p> <p>・本日のアクティビティ③の内容を確認する</p>	<p>指名された班（ランダムに指名）は、教員の指示に従い、本日のアクティビティ③「フリースタッグ」の模範演技（ルール・注意点の説明）を即興で行う。事前打ち合わせなし。</p>  <p>説明後、小グループ内でアクティビティを行う。</p> <p><小グループ内全員で></p> 
<p>・小グループ内で体験する</p>	
<p>Step5 9:50～ (40分)</p> <p>・本日のアクティビティ③クラス内発表会</p> <p>・個人で振り返りをする。</p>	<p>班ごとに、本日のアクティビティ③発表会を行う。事前打ち合わせなし。</p>  <p>振り返りカードの記入</p>

する。今回は、6人6グループとした。できるだけ日常の人間関係とは関係のないグループをつくることを心がけた。ここでは、互いをワークネーム（自分が呼ばれた名前）で呼び合うこと、その際には互いに目を見ること、うなづくことなど、コミュニケーションを円滑にする上での基本的なことを押さえながら、3種類ほどのウォーミングアップを行う。簡単なアイコンタクトゲームや、リズム連想ゲームをやりながら、学生たちはチームメンバーの個性を知ることになる。このあたりから、

日常の関わり具合とは関係なく、学生たちからは、笑い声が溢れ始める。また、ここでは、前回の復習として、学生の振り返りカードの中から取り上げておきたいことを紹介したり、アクティビティの考え方について黒板を使い解説をしたりする。学生は、同じ学科とはいえ、初めは互いの様子を伺う雰囲気がとても強い。90分の授業を進めるにつれて、その雰囲気は和やかなものへと変わっていく。特にこのStep1では、学生の変化が顕著に見られる。全15回が終わるころには、集団としてのまとまりが出てくる。

Step2は、本日の新しいアクティビティ①プレゼント・ゲームを行う。ここでは、Step1で解説した考え方を実践する。頭で理解していても、実際に行動に移すことは難しい。また、行動に移すことで、実感の伴った知識となる。ここでは、実感を伴う理解へとつながるように、まず、苦手意識や挫折感から活動への意欲が低くならないよう、段階を踏んで進めることに注意を払うようにしている。そのため、小グループ内でもペアワークを中心に進める。学生は、目の前の相手に集中することで、「分かった」「できた」という実感を持ち始める。

Step3は、本日の新しいアクティビティ②テレビショッピング風Yes, andを行う。ここでは、小グループ内で互いの表現を見合う活動がメインになる。見ることで、自分にはない表現に気付いたり、他者の表現のよさを認めたりする。徐々に、恥ずかしさを捨て、感情を表に出すことで、相手に思いが伝わることに気付き始める学生が出てくる。

Step4は、本日の新しいアクティビティ③フリーズタッグを行う。ここでは、グループメンバー6人全員参加で、一つのアクティビティを体験する。6人の関係性の中で、少しずつ、皆の思いを感じ取ることができるようになってきたとの実感をもつ学生が増えてくる。中には、ささやかな自己の成長に気付く学生もいる。しかし、アクティビティの内容によって、学生の中には、失敗することを恥ずかしがったり、うまくできないことを気にしたりする様子も見え始める。そこで、助けになるのが、グループメンバーである。この授業の基本的なルールとして、失敗をたくさんしていいこと、困ったときはグループの仲間にもうけてもらうこと、困っているメ

ンバーを見つけたときは勇気を出して自分が助けてあげるといふ思いをもつことなど、学生には繰り返し伝えるようにする。また、振り返りの中では、相手を褒めることを意識させている。こうすることで、他者から認められる経験を意図的に設定できる。

Step5は、本日の新しいアクティビティ③フリーズタッグのクラス内発表会を行う。ほぼすべての学生が、ここで極度の緊張感を味わう。そんな中、グループのメンバーに助けられる経験、観客役のクラスメイトから拍手などをもらい認められる経験、または、緊張に吞まれ、ふがいない自分がかかりすぎる経験など、多様な感情が入り乱れる。お互いの感情や価値観、個性がときにぶつかり、ときに共鳴する場となる。

このような学びの場を通して、学生は自己を見つめたり、他者のよさに気付いたりしていく。

3-3 授業後のアンケート、インタビューから

春学期の全15回の授業が終了後、匿名での授業後アンケート（自由記述）を実施した。また、成績開示後に、任意で複数の学生からインタビューを行うことができた。それら学生の感想を、アクティブ・ラーニングの視点（1）主体的に学びを振り返って次につなげること（2）協働の学びから対話を重ね多様な表現に気付き思考を広げること（3）学んだ知識や考え方を活用して問題解決などに向けて探求することの3点にまとめた。以下は学生の感想である。

3-3-1 主体的に学びを振り返って次につなげること ＜アンケートより＞

- (a)「相手の気持ちを考える必要がありました。自分だけが目立ちたいがために好き勝手やらないように、今後気をつけたいです。」
- (b)「最初は恥ずかしくて、カッコつけていたけれど、そんなことでは自分の思いとか伝わらないし、相手も受け入れてくれないと思って、全力で表現できるようになった。」
- (c)「積極的に動けるようになった。意図が伝わらなかったらという不安もあったが、周りを信じて動くことができた。」

<インタビューより>

(d)「僕は、明らかに自分が変わってきたのが実感できた。最初は、恥ずかしさの方がでかくて、一步が踏み出せないことがあったんですけど、嫌々でも授業をやっていくうちに、克服できたかなと。」

(e)「人の目の飛んでくるあれ、いっぱい目がある感じ？ 苦手だったので、人前に立つと、それこそ目がいっぱいあることに対しての、恐怖感、・・・俺が苦手だった部分が改善されてる。」

3-3-2 協働の学びから対話を重ね多様な表現に気付く思考を広げること

<インタビューより>

(f)「始めてみると、自分の欠点、こういうことが苦手なんだとか、コミュニケーションに関して新たな自分に対しての発見が多かった。これを通して、他の人のことを知れた。発見とか。」

(g)「*くんのことをすごいなって思えた。フレセミのとき、*くんには壁を感じた。話しかけたら、すべて切られる。続かない。でも、アーコミュのとき、結構ぐいぐい来ていたんで、おおって。全然違った。違う一面を見れた。」

(h)「アーコミュをやることで、仲良くなれる。その人の性格がよく分かる。日常生活では分からない、追い込まれたときのその人の爆発力、内面が見えた。普通に喋って打ち解けるより、深まる気がするんです。みんなの違った面が見れるから。深まり方が違う。普段おとなしい子とかが、大きく表現したりしてるのを見ると、印象も変わるから。アーコミュの時は、伝えてくる感じが伝わってきてよかった。いろんな人と絡むようになった。」

(i)「関係性を結ぶっていうんですか、いきなり入って、見ず知らずの段階で、・・・関係を結んで、なおかつこの授業は、多分話さなかった人いないんじゃないかっていうくらい、班編成もバラバラっていうのがあって、・・・人それぞれ考え方の違いがあって、価値観があって、・・・それを理解する、受け入れる、そう言った土壌っていうのを自分自身の中で育てていくっていうのも一つの目標であるんじゃないかな。」

3-3-3 学んだ知識や考え方を活用して問題解決などに向けて探求すること

<アンケートより>

(j)「相手の意見をまずはきちんと受け入れられるようになった。人とぶつかることは悪いことではないと気付いた。」

<インタビューより>

(k)「(期末の発表会に向けて) 最初不安だった。結構大変でした。(途中は) この班やだって思いました。まじかって。個性が強いんです、一人一人の。(グループ内で二人の) 意見が競り合っている感じで、全然決まらなくて。残りの3人はどっちでもいって感じで。(解決に向けて) 個人で連絡を取りあったりして。結局は向こうが折れたんですけど、(もう一人の相手の) 意見があるからってことで、どっちも折れて、(最後は) 違った意見にたどりついたって感じですね。それがあってから、どっちかが折れるって感じで進みました。ずっと引きずることはなくなりました。」

(l)「(発表会のグループ) は、みんなめちゃくちゃ変わっていて。言われればやるタイプ、流れに身を任せるタイプ、自分から結構行くタイプ、それとは逆で全くやらない(タイプがいた)。全くやらない人とやる人が同じグループに揃っていて・・・最初不安でした。このメンバーでやるんだあって。(最終的には、) うまく乗せて、やりました。ケンカっぽくはなりません。アーコミュって、その人の性格や特徴が出てくるんですけど、一番不安だった、結構言っちゃうタイプ。その主張が他の人より強くて、周りに受け入れる姿勢がないと反発しあっちゃう。それがこのグループでも起きるか不安だったんですけど、・・・大丈夫でした。なんだかんだでよかったなって。(最後は、全くやらないタイプが)『(練習を) やろう』って。」

学生のインタビューからは、本授業での葛藤、気付きや学びなど、様々なエピソードを聞きとることができた。互いの違いを認め、受け入れることは容易ではないが、学生はその大切さを、体験を通して学んでいったと考えられる。

4 おわりに

本授業で、学生は、コミュニケーションの入門編としてアクティブ・ラーニング型授業を体験的に学んでいる。インタビューの際、ある学生に、本授業が教員になってから役に立つと思うかどうか尋ねたところ「教員の仕事とつながりそう。もし自分が教員になれば、こういったコミュニケーションの取り方を子供たちと取れたらいいなって思いました。自分で体験をしたからこそ。」と語っていた。学生の中には、本授業の内容を教員として応用することについては「想像できないですね。現状では。ただ、今は想像できないんですけど、アイコンタクトとか、人に対してオープンになれる能力とか・・・何かしらできることはあるかもしれないです。」との漠然とした思いを語ってくれた学生もいる。当然、本授業の15回の経験だけで、主体的な学びへの指導力のある教員を養成することにはならない。学生にとっては、大学1年次でのこの学びがスタートとなって、今後更に教職についての学びを深め、実践力を身に付けていく必要がある。本学科の新カリキュラムでは、大学4年次に、本学科の発展科目として、アクティブ・ラーニング型の指導法を主とした授業の実施を予定している。このような大学4年間の学びの中で、現場に通用する主体的な学びを創造する指導力をもった教員を育てて送り出していきたい。

参考文献

- (1) 文部科学省「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(案)」2016
- (2) 北海道教育大学『教師になる劇場』文部科学省特別経費2011-2013年度「富良野グループと連携した演劇的手法による教員養成課程の学生並びに現職教員のコミュニケーション能力育成プログラム開発」2014
- (3) デイヴィッド・ブース (David Booth) 訳 中川吉晴、浅野恵美子、橋本由佳、五味幸子、松田佳子『ストーリードラマ教室で使えるドラマ教育実践ガイド』新評論2006